The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「多い・少ない」とその類義語の「おびただしい／わずかだ」の違い ： 形容詞の段階性と有界性から
Author(s)	包, 雅梅
Citation	日本語・日本文化研究. 2021, 31, p. 74-87
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85216
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「多い・少ない」とその類義語の「おびただしい／わずかだ」の違い
—形容詞の段階性と有界性から—

包雅梅

1. はじめに

(1)が示すように、日本語の形容詞「多い／少ない」は装定用法において使用制限がある。その現象について、異なる立場からの研究がある。例えば、仁田（1980）は、「多い」「少ない」の装定用法における制約を、それらが被修飾名詞の内在的性質の形容になっていないからである、としている。このことは、内在的性質の形容である(1b-d)に対して、(1a)の「多い／少ない」が装定が不可能であることに示される。一方、今井（2012）は「多い／少ない」の類義語の「おびただしい、膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ、わずかだ」などが同じく修飾される名詞の内在的性質を表していないにもかかわらず、(2)のように装定用法を持つことを指摘し、形容詞の装定用法は被修飾名詞の内在的に有する性質や属性を表さなければならないという説を批判した。

(1) a. ｛*多い／*少ない｝人が庭に集まっている。 仁田（1980）
b. 高い山に登ると、平地では見られないチョウに出会う。 BCCWJ[1]
c. 長い指はごく自然に心もち内側に向けて曲げられていた。 〃
d. 大きい蜘蛛は大きい虫、小さい蜘蛛は小さい虫を、取ってくれます。 〃

(2) a. ｛おびただしい／*多い｝人が庭に集まっている。 今井（2012）
b. 国会図書館には｛膨大な／*多い｝書物がある。 〃
c. 倉庫には｛豊富な／*多い｝食料がある。 〃
d. そのプロジェクトには｛潤沢な／*多い｝予算が配分された。 〃
e. アフリカには｛稀少な／*少ない｝資源がある。 〃
f. ｛わずかな／*少ない｝金が大きなトラブルの元になることがある。 〃

同様のことは、中国語についても成り立ち、形容詞「多／少」は一般に装定は不可能である。ただし、日本語と異なるのは、「多」の代わりに、程度副詞「很」がついた「很多」が装定可能であるという点である。朱（1956）は中国語の形容詞を甲類と乙類に分類し、甲類の形容詞（性質形容詞）は修飾される名詞を類別する機能を持つとし[2]、乙類の形容詞（状態形容詞）は類別ではなく、描写の機能を持つと指摘している。「很多」は乙類の状態形容詞だから、装定が可能になると述べている。「多」の分類については、先行研究ではっきりと述べられていないが、「多」は性質形容詞で修飾される名詞を類別する機能が働く必要が

あるが、後述する語彙的意味によって類別する機能が働かず、装定ができないと考えられる。

本研究は、「おびただしい、膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ、わずかだ」などが中国語の状態形容詞と類似した性質を持つことに注目し、「多い／少ない」とその類義語類の違いを示すことで、両者の間に装定の可否の差が生じる理由を明らかにする。

結論から言うと、「多い／少ない」は中国語の性質形容詞と類似した性質を示し、類別する機能が働くはずだが、「数／量」を表しているため類別する機能が働かず、装定がほぼ不可能になるということになる。一方、「おびただしい／わずかだ」は中国語の状態形容詞と類似した性質を示し、類別する機能を持たないため、装定が可能になるということである。

2. 中国語の性質形容詞と状態形容詞の統語的特徴

この節では、中国語の性質形容詞と状態形容詞の統語的特徴とそれらの統語的な振る舞いの違いについて見ていく。

朱（1956）は形容詞を甲類（性質形容詞）と乙類（状態形容詞）に分類している。甲類は単純な属性を表し、被修飾名詞を類別する機能を持つ。乙類はある種の量の観念、あるいは量の観念を含む属性に対する話者の主観的評価を表し、描写する機能を持つ。例えば、「白紙（白い紙）」の「白」は甲類形容詞で、「雪白的纸（純白の紙）」の「雪白」は程度の高い「白さ」を意味する点で乙類形容詞とされる。前者の「白」は「紙」の属性を表し、「紙」を類別する根拠であるのに対し、後者の「雪白」は類別の根拠ではなく、言及した物事の状態や様相を描写するものである。

朱（1982）によると、状態形容詞は形式から以下の５つのタイプに分類される。5)の“f”は程度副詞のことを指す。「很多」は 5)に属し、類別の機能が働かないため、被修飾形容詞の属性を表さなくていいことになり、装定が可能になると述べている。

1) 小小儿的（小さい　単音節性質形容詞の重畳型）
2) 干干净净（的）（清潔な　二音節性質形容詞の重畳型）
3) 煞白，冰凉，通红，喷香，粉碎，稀烂（白い、冷たい、赤い、芳しい、ばらばらだ、どろどろした　程度や状態を表す成分を含む二音節形容詞）
4)黑乎乎，绿油油，慢腾腾，硬梆梆，傻里傻气，灰不溜秋（黒い、緑色な、遅い、硬い、ばかばかしい、灰色な　ABB や A 里 AB や A 不 BC 式などの形容詞の複雑式）
5)“f+形容词+的”（程度副詞との合成式）

性質形容詞と状態形容詞の統語的な違いは以下の(3)にまとめられる。

(3)　a. 性質形容詞は類名を修飾でき、具体的な個体を修飾できないのに対して、状態形容

詞は具体的な個体を修飾できる。例えば、性質形容詞の「红（赤い）」と状態形容詞の「红红的（赤い）」について言えば、前者は「一朵花（一輪の花）」を修飾できないのに対し、後者は「一朵花（一輪の花）」を修飾できる。状態形容詞はより自由に装定の位置に現れる。（朱 1956）

b. 性質形容詞が単独で述定の位置に現れると対比の意味が生じるのに対して、状態形容詞は対比と比較のニュアンスがなく、自由に述定の位置に現れる。例えば、性質形容詞「红（赤い）」が「这朵花红（この花は赤い）」という文脈に現れる場合、「あの花は赤くない」のような対比の意味を含意するのに対し、状態形容詞「红红的（赤い）」を使った「这朵花红红的」はそのような意味を含意しない。（朱 1982）

c. 繋辞を使った形容詞述語文の場合、装定用法と同様に、甲類形容詞は主語の名詞を類別する機能が働く（「这张纸是白的（この紙は（他の色ではなく）白だ）」）。乙類の形容詞は主語を類別するのではなく、主語の状況や情態を表す（「这张纸是雪白的（この紙は真っ白だ）」）。（朱 1956）

朱（1956, 1982）の分析を、有界性と非有界性という観点から考察した研究として、沈（1995）、張（2007）が挙げられる。

朱（1956）は、状態形容詞はある種の量の観念、あるいは量の観念を含む属性に対する話者の主観的評価を表すと述べているが、沈（1995）はそれをさらに発展させ、性質形容詞と状態形容詞が示す量的な特徴をより一般的な観点から分析している。

モノは空間的に「有界」「非有界」の対立があり、動作は時間的に「有界」「非有界」の対立があり、性状は程度あるいは量において「有界」と「非有界」の対立があると指摘している。具体的には、例えば「白」という色はモノの性状だが、「白」には各種程度の差があり、「雪白（真っ白）」も、「灰白（青白い）」も「白」にはいる。したがって、「白」とはさまざまな種類の白色を代表するもので、どれとは決められない不定の量の幅を持ち、非有界性を示す。それに対して、「雪白」「灰白」はその非有界の量の幅の一定度（“量段”）或いは一点（“量点”）を示すもので、有界性を示す。さまざまな程度の「白」の間の境界線は明確でないが、主観的には境界が存在すると認識されているため、それらが示す性状は「有界」なのである。

状態形容詞の有界性によって、(3)の統語的な振る舞いが説明できる。(3a)については、沈（1995）によると、類名は非有界で、具体的な個体は有界であるためである[3]。修飾するものとされるものは有界・非有界について一致していなければならないため、有界である具体的な個体は非有界である性質形容詞による修飾ができないということになる。(3b, c)については、石（2000）と蔺（2002）によると、現代中国語において、独立した文の述語は有界の成分である必要があるからである[4]。

上述の内容をまとめると表 1 のようになる。

	性質形容詞（甲類）	状態形容詞（乙類）
有界性	非有界	有界
意味	属性を表す	量の観念、或いは量の観念を含む属性に対する話者の主観的評価を表す
機能	被修飾名詞を類別する	言及した物事の状態や様相を描写する
装定の特徴	類名を修飾でき、具体的な個体を修飾できない	具体的な個体を修飾でき、より自由に装定できる[5]
述定の特徴	単独で述定の位置に現れると対比の意味が生じる	単独で述定の位置に現れる場合、対比の比較のニュアンスがなく、より自由に述定できる
コピュラ文に現れる場合	主語の名詞を類別する	主語の状況や状態を表す

表 1　性質形容詞と状態形容詞の違い

中国語に関する上述のような議論は、日本語についても有益な視点を提供するものと思われる。本稿は、主に(3)に基づいて、「多い／少ない」と「おびただしい」などの違いを考察する。

次節では、まず、形容詞の有界性と非有界性は形容詞の段階性とスケール構造と関係することを指摘する。

3. 形容詞の段階性と有界性

前節で有界性と非有界性という概念を提示し、名詞の有界と非有界は可算と不可算に反映され、動詞の有界と非有界はアスペクトによって反映され、形容詞の有界と非有界は段階性（gradability）の有無に反映されることを見た。本節では、さらに、形容詞の段階性は程度副詞との共起状況や比較構造での生起状況などによって判断されることを示す。いくつかの先行研究に基づき、形容詞の段階性と有界性を判断するテストを確認した上で、数量を表す形容詞の段階性と有界性を判断するための統語的な判断基準を規定する。

Langacker (1987)によると名詞は可算と不可算によって、動詞は継続性の有無によって、それぞれ有界と非有界である。石（2000）によると、可算・不可算と継続性の有無は語彙項目の量的な特徴である。形容詞の量的な特徴は程度副詞との共起状況に反映される。

また、Sapir (1944)は段階的（gradable）と非段階的（non-gradable）という概念を提示し、段階性（gradability）という特性は、名詞、動詞、副詞、形容詞といった品詞に見られる普遍的な特性であるとしている。

Quirk et al. (1972)によると、比較構造と程度副詞は段階性を持ち、英語の段階的な形容詞

は以下の(4)のように比較級と最上級を持ち、副詞と共起できる。すなわち、段階性を持つ構造はその構造に生起できる要素も段階的である必要がある[6]。段階性を持つ語彙項目は修飾されるものも段階的である必要があると考えられる。したがって、非段階的な（non-gradable）形容詞である *atomic*、*pregnant*、*geographical*、*hexagonal* などは(4)のような形式に現れない。

(4) a. tall/taller/tallest
b. beautiful/more beautiful/most beautiful
c. *very* young
d. *so* plain
e. *extremely* useful

上述のように、形容詞の有界性（boundedness）は形容詞の段階性（gradability）と関係すると考えられる。ただ、段階的（gradable）であることは非有界（unbounded）であることを意味しない。石（2001）によると、fully gradable な形容詞だけが非有界で、それ以外の gradable なものは有界である（Cruse1986、Paradis2001 も参照）。

つまり、非有界的な形容詞は、fully gradable である必要があるが、中国語の性質形容詞は微量から多量に至るまで様々な量を表す程度副詞の修飾を受けることから、fully gradable と見なすことが可能であると考えられる。したがって、中国語の形容詞は fully gradable で非有界であるということになる。

張（2000）は状態形容詞の量の特徴に基づいて、状態形容詞は程度副詞の修飾を受けないことを指摘している。状態形容詞は量的に幅を持たない一方、性質形容詞は量的に幅を持つ。そのため、状態形容詞は「最（最も）、很（とても）、比较（比較的に）、稍微（やや）」などの程度副詞の修飾を受けないが、性質形容詞は程度副詞の修飾を受けるという。

以上、形容詞の有界性と段階性の関係を論じ、中国語の状態形容詞は非段階的で有界であることが分かった。沈（1995）、張（2007）は、中国語の性質形容詞と状態形容詞の統語的な振る舞いを有界性という観点から論じたが、形容詞の特性を考える上では段階性という観点からの考察も必要となってくる。以下の節では、有界性と段階性という観点から「多い／少ない」とその類義語類の違いを考察する。

3.1 数量を表す形容詞の有界と非有界

この節では、数量を表す形容詞の有界性と非有界性を検証し、「多い／少ない」とその類義語類の違いを示す。

最初に、「很多」が上述の状態形容詞の特徴を示すかどうかを観察する。

張（2007）は状態形容詞かどうかを判断するために、以下二つの基準を提示している。まず、状態形容詞は語彙レベルで程度・量を表現しており、程度副詞と共起しにくいた

め、「｛最／很／比较／稍｝+__」という構文に生起しない。そして、状態形容詞の主な機能は物事や動作に対して描写することであり、それゆえに全て述定用法を持つため、「$NP_{主}$+$__{}_{述語}$」という構文に生起する。(5)が示しているように、「很多」はその二つの基準を満たしている。

(5) a. 图书馆 里 人 ｛*最／*很／*比较／*稍微｝ 很多。
図書館 に 人 ｛最も／とても／比較的／やや｝ 多い。
b. 图书馆 里 人 ｛多／很多｝[7]。
図書館 に 人 多い

では、これらの点について、日本語の「多い／少ない」はどのような性質を持つのだろうか。(6)で示されるように、程度副詞の修飾を受け比較構文にも現れるため、段階形容詞であると考えられる。

(6) a. 図書館に人が｛多い／とても多い｝／｛少ない／とても少ない｝。
b. 図書館に人が｛最も／とても／比較的／やや｝｛多い／少ない｝。

また、微量を表す程度副詞から多量を表す程度副詞までの修飾を受けることから、非有界であるとも考えられる。

一方、「多い／少ない」の類義語である「おびただしい、膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ、わずかだ」などが段階性を示すかどうかをテストすると、(7)と(8)が示すように、それらの語彙は大まかに 2 つのグループに分けられる。それは「おびただしい、わずかだ」と「膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ」である。「おびただしい、わずかだ」は程度副詞の修飾を受けず、比較構文に現れない。「膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ」は一部の程度副詞の修飾を受け、比較構文にも現れる。このことから、「おびただしい／わずかだ」は非段階的な形容詞であることが分かる。

(7) a. 砲兵の死傷が｛?最も／?とても／*比較的／*少し／*やや｝おびただしい。
b. 私の貯金は｛*最も／?とても／*比較的／*少し／*やや｝わずかだ。
c. 総合図書館の蔵書は｛最も／とても／*比較的／*少し／*やや｝膨大だ。
d. アフリカの資源は｛最も／とても／比較的／?少し／?やや｝豊富だ。
e. A社の資金は｛最も／とても／比較的／?少し／?やや｝潤沢だ。
f. その資源は｛最も／とても／比較的／?少し／やや｝希少だ。

(8) a. アフリカの資源は日本より｛多い／少ない｝。

b. *アメリカのコロナの死者は日本よりおびただしい。
c. *アフリカの資源は日本よりわずかだ。
d. 総合図書館の蔵書は外国学図書館より膨大だ。
e. アフリカの資源は日本より豊富だ。
f. A社の資金はB社より潤沢だ。
g. アフリカの資源は日本より稀少だ。

この特徴から見ると、一見、「膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ」は「多い／少ない」と同様に扱えるように思われるが、さらに考察すると、(9)のように、それらの語彙は「多い／少ない」と異なる性質を示している。

(9) a. 花子が持っているリンゴは太郎より 3 個多かった。
b. *総合図書館の蔵書は外国語図書館より 1 万冊膨大だ。
c. *100g のみかんのビタミン C は 100g のリンゴより 10mg 豊富だ。
d. *A 社の資金は B 社より一千万円潤沢だ。
e.*日本の貴金属資源はアフリカより 100 トン希少だ。

(9)が示している違いの原因は、「膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ」などは fully gradable でないためと考えられる[8]。本稿では、(7)と(8)で示されるような形容詞の段階性という観点を重視し、「膨大だ、豊富だ、潤沢だ、希少だ」を本論文の考察対象から除くことにする。

以上の考察に基づき、次節では「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の装定用法と述定用法の両方からそれらの統語的な振る舞いを考察する。

4. 「多い／少ない」と「おびただしい／僅かだ」の違い

前節で述べたように、程度副詞との共起状況と比較構文での生起可能性から、「多い／少ない」は段階的で非有界であり、「おびただしい、わずかだ」は非段階的で有界であると考えられる。

この節では、「おびただしい、わずかだ」について、中国語の状態形容詞のように、限定する機能が働かないのかどうかを検証する。

4.1. 「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の述定用法

中国語の性質形容詞は自由に述語として使われない、単独で述語になる場合は、「対比／比較」の意味を表すと朱（1982）は指摘している。

中国語の性質形容詞に関するこのような制限は、佐野（2016）が指摘する「??クジラは多い」が不自然であるのに対し、「クジラは多いが、イルカは少ない」のような対比する文脈

なら自然であるという現象と通底するものと思われる。

張（2011）は、中国語の性質形容詞が無標で述定の位置に現れる二つのケースを指摘している。一つは、結果補語として現れる場合である。もう一つは、(10)のような「S_1+S_2+形容詞」の構造に現れる場合である。この構造において、S_2は非有界のものと関係し、非指示的（non-referential）なものであるとされる。

(10) a. 他　　头发　　蓬松
　　彼　　髪の毛　ふわふわ（彼は髪の毛がふわふわである）

b. 他　浑身　　难受
　彼　至るところ　不快（彼は全身が快くない）

c. 他　精神　　疲惫
　彼　精神　疲れ果てる（彼は精神的に疲れ果てている）

d. 他　封建意识　　浓厚
　彼　封建意識　　強い（彼は封建的な意識が強い）

e. 这本书　内容　丰富
　この本　内容　豊富（この本は内容が豊富である）

f. 下属部门　机构　庞大
　下位部門　機構　膨大（下位部門は仕組みが膨大である）

g. 树木　枝叶　　茂密
　樹木　葉　　密生している（この樹木は葉っぱが密生している）

h. 车站　人员　庞杂
　駅　　人　　繁雑（駅には人が様々で多くいる）

中国語の性質形容詞と「多い」との共通点は、それらが単独で述語として使われる場合、「対比／比較」を表し、主題に対する叙述とは解釈できないという点にある。例えば、性質形容詞「厚」を述語とする文「这本书厚（この本は厚い）」は「この本は厚いタイプだ」のように分類を表しており、本に対する叙述とは解釈できない。日本語でも同様であることは、佐野（2016）が指摘する、以下のような文脈で絶対的解釈[9]が可能であるという現象から示される。(11)の各例は、張（2011）が指摘しているものの日本語の対応物と言える、「S_1＋S_2＋形容詞」となっている。

(11) a. その人は子どもが多いからすでに二軒借りて住んでいるんです。
b. ○○公園はごみが多い。
c. 既存の化学処理法はきわめて高価で問題が多い。
d. ここは公園の核心部でレンギョウ、モクレン、ブジ、サルスベリなど花が多い。
e. 日頃の彼女たちの保護活動は実に地道で苦労が多い。

一方、「おびただしい／わずかだ」は、このような構造に現れなくても、対比／比較の意味にならない。BCCWJ で「おびただしい、わずかだ」の終止形を検索すると、以下のような例が見られる。

(12) a. 高麗の占い師がその頃京都の市中にいた、というのも面白いが、このことをはじめとして、池田亀鑑氏の『源氏物語事典』によると、作中の漢詩文の引用はおびただしい。
b. 胃での栄養分の吸収はわずかである。アルコールの一部は胃で吸収される。

また、「対比／比較」を表すことは、排他的な文脈に現れるかどうかによっても検証できる。朴（2016）は、「好」と「很好」は、前者が排他的な文脈に現れるのに対し、後者がそのような文脈に現れないという点で異なることを指摘しているが、「好」が性質形容詞、「很好」が状態形容詞であると考えれば、このことは自然に説明される。

(13) Q: 哪个好(どれがいいですか)？
－A: 这个{好／*很好}(これがいい)。 朴(2016)

(14) Q: 天气怎么样(天気はどうですか)？
－A: 天气｛*好／很好｝(天気はいい)。 朴(2016)

この点について「多い」と「おびただしい」、「少ない」と「わずかだ」を比較すると、「多い」「少ない」が排他的な文脈に現れうるのに対し、「おびただしい」「わずかだ」はそのような文脈に現れにくいことが分かる。

(15) Q: この一年でどの災害が多かったですか？
－A：地震が｛多かった／??おびただしかった｝です。

(16) Q: この一年でどの災害が少なかったですか？
－A：洪水が｛少なかったです／??わずかでした｝。

以上のように、「多い／少ない」は単独で述語として使われる場合対比のニュアンスが生じ、排他的な文脈にも現れうる。一方、「おびただしい／わずかだ」は単独で述語として使われる場合は対比を表すことはなく、排他的な文脈に現れることもない。このことから、「多い／少ない」は中国語の性質形容詞と類似した性質を示し、「おびただしい／わずかだ」は中国語の状態形容詞と類似した性質を示し、被修飾名詞を類別する機能は持たないと考えられる。

4.2. 「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の装定用法

前節で「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の述定用法を見た。この節では、「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の装定用法についても、述定用法のように異なる機能が働くのかを検討するために行ったコーパス調査の結果について検討する。BCCWJ で、「多い（連体修飾形）」が文頭から始まり、名詞が後接する文を調べた[10]。その結果「多い＋N」は 62 例があり、共起する名詞を観察すると、以下の表 2 のようになる。「おびただしい（連体形）」が文頭から始まり、名詞が後接する例は 34 例ある。「わずかな」は 102 例ある。それらの形容詞と共起する名詞は以下の表 4 のようになる。

時	日	方	人	分	物	順	その他	合計
20	11	6	4	3	2	2	14	62

表 2「多い」の連体修飾形に後接する名詞

数	量	血	人間	人々	賊	兵糧	粉塵	看板	その他	合計
6	4	4	1	1	1	1	1	1	14	34

表 3「おびただしい」の連体修飾形に後接する名詞

時間	額・金額	差・段差	光	間	街灯・灯	距離	風	例	その他	合計
13	5	5	4	3	3	2	2	1	64	102

表 4「わずかな」の連体修飾形に後接する名詞

「多い」の場合、修飾される名詞のほとんどは「時、日、方」といった非実質名詞である。以下の(17)が示すように「多い＋N」の例は形式上は装定となっているが、実際は「～が多い＋N」の省略である。このことは、「多い」単独では語彙的な意味の関係で類別する機能が働かず[11]、「～が多い」が一つのまとまりとして、修飾される名詞を類別していると考えれば自然に説明できる。

(17) a. 毎朝病院へ寄って、この穴から水をとってもらうんです。多い時は一升も出ますね。
b. 冬場は長い距離を走って体づくりに専念してきた。多い日は、ダウン走を含めて三十五キロを走り込んでいる。
c. 守護霊は一人とは限りません。多い人ですと三人も四人もついています。
d. この時代に殺されたマンモスの死体はいまでも、槍の穂先がささった状態で発見される。多いものでは一体に八つの槍先がささっている。

「おびただしい」と「わずかな」の例については、以下の(18)と(19)でいくつかを挙げる。「おびただしい」と「わずかな」の場合は「多い」と異なり、ガ格名詞句が省略されているとは考えにくく、類別する機能が働くとも考えにくい。

(18) a. おびただしい血が流れていたが、腱はつながったままだ。
b. おびただしい賊や害獣の群ればかりがいた。
c. おびただしい兵糧を置き捨てて、曹軍の先頭は、四方に潰走してしまった。
d. おびただしい粉塵が舞い上がっている。
e. おびただしい看板の下には、さまざまな動物が大きさの異なる檻に入れられて、街路に沿った食堂の前に展示されていた。
f. おびただしい人間のそれぞれ異なる指が、同じボールに突っこまれ、そのたびにおびただしい数の汚れや陰影や風味が、内容物の味わいにつけ加えられてゆくのである。

(19) a. わずかな時間だったにもかかわらず、ジャーネには、とても長く感じられた。
b. わずかな段差でも、日本ではしきりを意味する。
c. わずかな月の光が雲間からさして、ゆくての道を照らしていた。
d. わずかな間にそれだけ考えているのだ。

「おびただしい」が修飾される名詞を類別する機能を持たないことは、表 3 で見られるように「おびただしい」が直接修飾しているものの多くが「数」と「量」であることからも示される。なぜなら、「数」や「量」は、「紙」や「花」などと異なり、複数の種類からなる集合を成していないため、本来的に類別することが不可能だからである。

一方、「少ない」の連体形で文頭から始まる例を調べ、後接する名詞を観察すると、「多い」とは大きく異なる特徴が見られる。合計 70 例があるが、それらの例において、修飾される名詞は幾つかの名詞に集中しておらず、様々な名詞が観察される。例えば、「数、量、時、材料、客、エネルギー、予算、年金、人材、花、メモリ、スペース、情報、力、例…」など

である。実際の例を見てみると、以下のような例がある。

(20) a. 少ない時間で瞬く間に美味しい料理を作る。
b. 少ない部品であるから、大切に扱うべきである。
c. 少ないセリフで心情を表現する難役はやりがいがあった。

王（2011）によると、「少ない」と「少しの」は相補分布を成すという。「少しの」は「量」を修飾し、「数」を修飾できない。また、「少しの」は数量詞の性質を持ち、比較基準を前提としない表現である。そのため、「少ない」は「数」を修飾する場合と「基準値を下回る」という意味を表す場合に用いられる。

このような「多い」と「少ない」がシンメトリーをなしていない現象については、別稿で議論することにする。

5. まとめ

本稿では、「多い／少ない」とその類義語の「おびただしい、わずかだ」の違いを中国語の性質形容詞と状態形容詞の違いとの類似性に基づいて説明した。

「多い／少ない」が段階形容詞で非有界であり、「おびただしい／わずかだ」は非段階形容詞で有界であることによって、「多い／少ない」と「おびただしい／わずかだ」の振る舞いの違いが一部説明できる。つまり、「おびただしい／わずかだ」は類別する機能を持たないため、装定が可能になるということである。

今後の課題としては、以下の点が挙げられる。まず、形容詞が有界であれば自由に装定と述定が可能であるのに対し、形容詞が非有界であれば装定用法と述定用法において使用制限があると述べたが、その両者のつながりはまだ明確になっていない。また、語彙の量的な特徴において、「おびただしい、わずかな」と「多い／少ない」が異なるのは事実であるが、朱（1982）が述べる「描写する」機能については、その理論的な位置づけを含め、詳細が明らかにされていない。いずれの点についても、さらなる考察が必要である。

【参考文献】

今井忍（2012）「なぜ「多い学生」「少ない本」と言えないのかー＜存在＞の意味成分に基づく再検討ー」『日本語・日本文化』第 38 号: 53-80

今井邦彦・中島平三（1978）『文 II』（現代の英文法 5）．研究社

佐野由紀子（2016）「「多い」の使用条件について」『日本語文法』16 巻 2 号: 77-93

寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味 III』．くろしお出版

包雅梅（2021）「「多い／少ない」の述語としての特徴についてー他の段階的な形容詞との比較からー」汉日对比语言学研究会学会研究発表（2021 年 8 月 21 日、於杭州師範大学）

八木孝夫（1987）『程度表現と比較構造』（新英文法選書 7）．大修館書店
蔺璜（2002）「状态形容词及其主要特征」『语文研究』第 2 期: 13-16
史有为（1984）「性质形容词和状态形容词琐议」『汉语学习』02: 10-21
石毓智（1991）「现代汉语的肯定性形容词」『中国语文』第 3 期: 167-174
石毓智（2000）『语法的认知语义基础』江西教育出版社
石毓智（2001）『肯定和否定的对称与不对称』北京语言文化大学出版社
沈家煊（1995）「“有界”和“无界”」『中国语文』5: 367-380
熊仲儒（2013）「量度范畴与汉语形容词」『世界汉语教学』27-3: 291-304
朱德熙（1956）「现代汉语形容词研究」『语言研究』第 1 期: 3-41
朱德熙（1982）『语法讲义』商务印书馆
张伯江（2011）「现代汉语形容词做谓语问题」『世界汉语教学』第 1 期: 3-12
张国宪（1996）「形容词的记量」『世界汉语教学』第 4 期 淮北煤炭师范学院 p33-42
张国宪（2000）「现代汉语形容词的典型特征」『中国语文』 第 5 期 p447-480
张国宪（2007）「状态形容的界定和语法特征描述」『语言科学』01 p3-14
朴正九（2016）「从类型学视角看汉语形容词谓语句的信息结构」『中国语文』4 p387-396
Bolinger, D. (1972) *Degree Words*. Paris: Mouton
Burnett, H. (2017) *Gradability in Natural Language*. Oxford University Press.
Langacker, R. W. (1987) Nouns and verbs. *Language* Vol. 63.1: 53-94
Paradis, C. (2001) Adjectives and boundedness. *Cognitive Linguistics*: 12-1: 17-65
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1972) *A grammar of contemporary English*. London: Longman.
Sapir, E. (1944) Grading: A study in semantics. *Philosophy of Science*, 11: 93-116.
Unger, P. (1975) *Ignorance: A Case for Scepticism*. Oxford: Clarendon Press.

---

1 本稿では『日本語書き言葉均衡コーパス』（https://ccd.ninjal.ac.jp/bccwj/）を BCCWJ と表記することにする。

2 「類別する機能」について、朱は「白紙（白い紙）」という例を挙げて、紙には様々な色の紙があるが、黒い紙ではなく、白い紙であるという意味で解釈されるのが形容詞の「類別する機能」だと述べている。

3 沈（1995）によると、モノは空間を占有し、空間における「有界」と「非有界」の区分を持つ。たとえば、一台のテーブルは一定の空間を占め、さらに一定の境界を有する。それはひとつの「個体」であり、有界のモノである。有界名詞の形式で最も典型的なものは「数詞＋量詞＋名詞」である。それ以外に、固有名詞と指示詞を伴う名詞の多くも個体を指すので有界である。指示詞を伴う名詞の一部は総称的でもあり、個体のモ

ノを指さないので非有界となる。類名も個体のモノを指さないという点で非有界とされる。

4 石（2000）は古代漢語と現代中国語の違いの一つとして、述語の構造を挙げている。古代漢語の場合、動詞と形容詞は単独で述定の位置に現れるのに対し、現代中国語の場合、述語を有界化する必要がある。有界化は、動詞あるいは形容詞を数量詞、時間、前置詞句、結果補語、程度副詞などと結合させることによって実現される。

5 状態形容詞は「雪白的紙」のように一見類名を修飾することができるが、その機能は物事の状態や様相の描写であり、状態形容詞に修飾される類名は、目の前にある物や特定のものとして解釈される。このことは、沈（1995）が指摘する状態形容詞述語の場合と同様である。沈（1995）によると、性質形容詞「薄（薄い）」が述語の時は、「紙」は類名の非有界名詞として理解できる。一方、状態形容詞の「薄薄的（薄い）」が述語である時は、主名詞の「紙」は特定の一枚の紙のことを指す有界名詞として理解しなければならないとされる。

6 構文の coercion のために、段階性を持つ構造に非段階的な要素が入ることができる例外的な場合もあるが、その場合、非段階的な要素は段階的であると解釈され直すことになる。例えば、「这种做法非常日本（このやり方はすごく日本的である）」という文において、程度を表す「非常」が「日本」と共起している。この場合、元々非段階的な構造を示す「日本」は、「日本らしい」という段階的な意味になっている。

7 (7b)では「多」と「很多」のいずれもが使用可能であるが、「多」を使った場合には対比のニュアンスが生じる。

8 (9)のような構文に現れないことはこれらの形容動詞が fully gradable ではないことと関連していると考えられるが、この点に関する議論は別稿に譲りたい。

9 佐野（2016）によると、絶対的解釈とは、が格名詞句の指示対象を他のものと比較し、相対的な数量を表すのではなく、「～が多い」が一つのまとまりとして主題に対して叙述しているということである。

１０ 「～が多い N」のような例を排除するために、形容詞が文頭から始まるという検索条件を設定した。

１１ 「多い／少ない」の語彙的な意味については、包（2021）で論じた。